

構造工学論文集 初回原稿用チェックシート

下記の項目を確認して下さい。

チェックシートでチェックされているにもかかわらず、**様式が守られていない原稿は掲載が認められない**場合があります。

Microsoft Word ファイルで原稿を作成される場合は、各自で書式設定をせず、必ず、所定のテンプレートのファイルを用いて原稿を作成して下さい。また、Microsoft Word ファイルで原稿を作成しない場合も、できるだけ完成原稿が体裁見本のPDFと同様になるようにして下さい。

※R4年度より、論文、報告、総説、および委員会報告のテンプレートを統一しました。

※R8年度より、日本語表記の参考文献には英語表記を付け加えることとなりました。

(1) 原稿の書式

□原稿は、A4版で作成されている。

□原稿の余白は、上 20mm、下 25mm、左 20mm、右 20mm に指定されている。

□本文は、2段組となっている(25字×50行×2段)。

□原稿の余白部分に記載されている文字、図・表・写真等はない。

□本文のフォントは、和文の場合には明朝体(算用数字は Times)、英文の場合には Times 体を使用している。

□所定の行間の設定となっている。

(特に、英文原稿の場合に、所定の行間よりも詰まった状態で投稿されているケースが多い状況。)

□文字化けの原因となる丸囲み数字①、全角のローマ数字 I、崎などの環境依存文字は使用していない。

□本文のフォントサイズは、10ポイントである。

□使用する句読点について、和文の場合には全角の「，」、「。」とし、英文の場合には半角の「,」、「.」を用いている。

□単位は SI 単位である。

□原稿は、全部で 14 ページ以内である。

□原稿中に大幅な余白がない。

(2) タイトル、著者名、所属先の書式

□タイトルページの 1 行目左端に、フォントサイズ 10pt で、(Vol.(半角スペース)73A(半角スペース)(2027 年 3 月)として)

和文論文:「構造工学論文集 Vol. 73A (2027 年 3 月)」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。

和文報告:「構造工学論文集 Vol. 73A (2027 年 3 月) 報告」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。

和文総説:「構造工学論文集 Vol. 73A (2027 年 3 月) 総説」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。

~~和文委員会報告:「構造工学論文集 Vol. 73A (2027 年 3 月) 委員会報告」, 右端に「土木学会」と記載し、題目との間は 1 行空けている。~~

英文論文:「Journal of Structural Engineering Vol. 73A (March 2027)」, 右端に「JSCE」と記載し、題目との間は 2 行空けている。

英文報告:「Journal of Structural Engineering Vol. 73A (March 2027)」, 右端に「JSCE」と記載し、次の行の左端に「Technical report」と記載し、題目との間は 1 行空けている。

英文総説:「Journal of Structural Engineering Vol. 73A (March 2027)」, 右端に「JSCE」と記載し、次の行の左端に「Review article」と記載し、題目との間は 1 行空けている。

~~英文委員会報告:「Journal of Structural Engineering Vol. 73A (March 2027)」, 右端に「JSCE」と記載し、次の行の左端に「Committee report」と記載し、題目との間は 1 行空けている。~~

□和文の場合には、**題目(タイトル)のフォントサイズは 14 ポイント**、フォントはゴシック体を用いている。また、1 行空けて英文タイトルを記述する。そのフォントサイズは 10 ポイント、フォントは Times 体とし、先頭の 1 文字および固有名詞の始めの文字のみ大文字としている。

□英文の場合には、**題目(タイトル)のフォントサイズは 14 ポイント**、フォントは Times 体を用いている(全角文字は用いない)。

□タイトル(和文および英文)は中央揃えである。

□和文あるいは英文のタイトルが 2 行にわたる場合、「段落」の「間隔」の「1 ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」のチェックを取ってある。

□姓と名の間に空白が無い(和文の場合には、名字と名前の間にスペースは入らない)。

- 著者名のフォントサイズは 10 ポイント、フォントは明朝体あるいは Times 体を用いている。
- 英文の著者名は、半角カンマ+半角スペースで全て区切られている(全角カンマを用いない。また、最終著者の前を and にしない)。
- 著者名の位置は、英文タイトルから 1 行空けて中央揃えとなっている。
- 連絡著者には*を付し、連絡著者以外には、*の個数を変えて所属先と対応させている(2 つの記号を組み合わせない)。
- 著者の所属は著者名から 1 行空けて中央揃えとなっている。
- 著者の所属の書き方は、体裁見本と同様に、組織名→部署名となっており、組織名が無い状態になっていたり、順序が逆になっていたりしない。
- 1 ページ目左下に原稿体裁に従って E メールアドレスを記載している(連絡著者 / **Corresponding author** の表記はそのままとし、**著者名には置き換えず**、その下に E メールアドレスのみ記載する)。
- 連絡著者欄の文字の左側には空きがある(Microsoft Word の体裁ファイルでは、テキストボックスで連絡著者の情報を記入しているが、テキストボックスの左側には、文字との間に 2.06mm の間隔がある)。
- 連絡著者欄の上には太さ 0.75mm の罫線が引かれている(すぐ上の本文のアンダーラインとはならないようにする)。

(3) 英文アブストラクト

- 著者所属から 1 行空け、1 段組(左右両端を 25mm 空ける)で記載されている。
- 長さは、10 行以内もしくは 120 words 以内である(10 行を超えていない)。
- フォントサイズは 10 ポイント、フォントは Times を用いている。

(4) キーワード

- 1 段組とし、その位置は英文アブストラクト(英文部分に全角文字は用いない)の次の行(1 行空けない)となっている。
- フォントサイズは 10 ポイント、英字フォントは Times-italic、和文フォントは明朝体(斜体)を用いている。
- 数は 3, 4 個であり、複数行となる場合はキーワードの本体部分の先頭が揃うように、インデントを行っている。(キーワード部分も、左右両端を 25mm 空ける。)

(5) 本文の書式

- キーワードから、和文の場合には 2 行空けてから、英文の場合には 3 行空けてから、章を書き始めている。
- 見出しのレベルは、章、節、項までの 3 段階となっている。
- 章、節、項の見出しは、フォントサイズ 10 ポイント、フォントはゴシック体(和文の場合)もしくは Times-Bold 体(英文の場合)を用いている。
- 英文の場合には、4mm もしくは半角スペース 3 文字分インデントをしている。
- 章の見出しは、その上下について 1 行空けている。
- 節の見出しは、その上のみ 1 行空けている。
- ページや段が切り替わる部分は、**見出しが最下部にはなく**、最上部にある。

(6) 式・記号

- 式は、中央揃えとなっている。
- 式番号は(1), (2), (3)・・・とし、右揃えにしている。
- 式中の記号は、本文と可能な限り同じフォントを用いている。
- フォントサイズは本文と同じく 10 ポイントとしている。

(7) 図・表・写真

- 呼称は、和文(図-1, 表-1, 写真-1), あるいは英文(Fig. 1, Table 1, Photo 1)とし、章ごとに分けずに通し番号となっている。
- 図・表・写真は、ページの途中に配置されておらず、文章の間に位置していない。
- 図・表・写真には、簡潔なキャプションを付し、和文もしくは英文に統一されている。
- キャプションの位置は、図、写真はその下に、表はその上に配置している。
- 図・表・写真のキャプション、番号のフォントサイズは 10 ポイントとし、和文フォントは明朝体、英文フォントは Times を用いている。
- 図・表・写真は本文の引用箇所に近い所に配置されている。
- 図・表・写真の番号・タイトルを含む領域の上下を、本文から 1 行以上空けている。

(8) 謝辞・付録

- 謝辞・付録のフォントサイズは 10 ポイントとし、見出しのフォントはゴシック体(和文の場合)もしくは Times-Bold 体(英文の場合)、本文のフォントは和文の場合には明朝体、英文の場合には Times 体としている。
- 謝辞はその上に 1 行のみ空けている。
- 付録はその上下について 1 行空けている。
- 謝辞は結論の後に位置している。
- 付録は参考文献の前に位置している。

(9) 参考文献

- フォントサイズは 10 ポイントとなっている。
- 本文中での引用は、右上付き片括弧付き文字としている(例, ○○¹⁾. 引用番号のみが行の左端に位置していない)。
- 本文中に参照しているもののみを記載している。
- 記載した参考文献情報が J-STAGE にも掲載されるが、各文献について、著者、題目、論文集名、巻、号、ページ、年などの必要事項を間違いなく書いている。
- 参考文献の発行時期は、原稿の見本と同様に、年まで表記し、月は表記しない(例 ○2020. ×2020.1)。
- すべての日本語表記の参考文献に、英語表記を並べて示している。

(10) 受付日, 受理日

- 最後の参考文献の次の行に位置している(1 行空ける)。
- 受付日を(2026 年 9 月 14 日)としている。
- 受理日を(2026 年**月**日)としている。
- フォントサイズは 10 ポイントとし、右揃えとしている。

(11) その他

- 最終ページは、2 段組の高さを揃えるように(左右のバランスを)調整している。
- PDF ファイルにセキュリティ設定をしていない。
- PDF ファイルに全てのフォントを埋め込んでいる。
- ページ番号および行番号を付している。
- ~~委員会報告の場合は、第 1 章の最後に、「本委員会報告は○○小委員会の成果の一部を報告するものである。」のように研究小委員会名を明示している。~~

以 上